

2021 年度(令和 3 年度)

事業計画書

(第 11 事業年度)

自 2021 年 1 月 1 日

至 2021 年 12 月 31 日

公益社団法人企業メセナ協議会

<目次>

| | |
|------------------------------|----|
| 時代とともに変化する”今”の企業メセナを発信 | 2 |
| 重点目標と施策 | 3 |
| I. 組織運営 | 5 |
| II. 事業計画 | |
| 調査・研究 | 6 |
| 認定・顕彰 | 9 |
| 会員ネットワーク/セミナー | 12 |
| 相談・協力・コンサルティング | 13 |
| 助成 | 14 |
| 広報 | 16 |
| III. 年間スケジュール | 18 |
| IV. 収支予算 | 21 |

時代とともに変化する“今”の企業メセナを発信 ～ SDGs時代の芸術文化、企業メセナ ～

昨年は全世界がコロナ禍に見舞われ、2020年東京オリンピックも本年7月に延期されるなど社会全体に多大な被害・影響をもたらした。芸術文化分野においても、生の舞台、演奏会などが中止、延期を余儀なくされる中、WEB配信の活用、専門家の助言に基づく安全策を実施するなど工夫を加えながら徐々に活動が行われ、活動継続のための努力が続けられている。協議会においても、設立30周年記念特別講演会や交流会を本年度に延期するなど、さまざまな影響を受けながらも活動を継続した。

本年で協議会は、設立31年目を迎える。設立時から時代は大きく変化している。グローバリズムの進展とともに社会課題も深刻化し、昨年のコロナ禍によりさまざまな課題がさらに顕在化した。同時に、芸術文化活動が行えない状況が続く中、ドイツのモニカ・グリッター文化相の「アーティストは今、生命維持に必要不可欠な存在である。」という言葉が象徴するように、かえって芸術文化の持つ力、重要性が再認識された。オンラインの利便性も有効であるが、人と人がリアルに交流することの重要性にも気づかされ、多くの人々が芸術文化の果たす役割の大きさを実感している。

グローバルには社会課題の解決を目指すSDGs、企業におけるCSR、ESG、CSV、という時代の変化の中で、企業のメセナ活動は確実に社会に向けて拡張・進化している。メセナという言葉を知らない、あるいはバブル時代のイメージを持つ人たちも少なからず存在しているが、芸術文化の力を活用しながら「社会課題の解決」、「新しい価値の創造」に着実に取り組んできている。協議会は企業の幅広いメセナ活動の現在における意味、意義を国内外に発信し、新しい「企業メセナ」(メセナ)を伝える役割を担っていく。そのために、時代の変化を踏まえながら今一度「メセナ」の役割を見直すことに取り組んでいく。それとともに、企業、芸術団体、アーティスト、研究者などさまざまなステークホルダーのプラットフォームとして、ネットワークの強化を図り、よりよい社会の実現に寄与していく。

本年度、協議会としてあらゆる事業を通じて、“今”の企業メセナを広く認識してもらうことを目指す。また、全国各地で行われている企業や芸術文化団体などの活動を掘り起こし、各地域の活性化に寄与していく。そして協議会への共感者を増やし、会員の獲得にも努めていく。事業活動では、認定・顕彰、調査・研究、助成を主軸としながら、それぞれの事業目的に立ち返り、事業価値の向上に取り組む。同時に、今まで以上に事業の連携と広報強化につとめ、協議会としての活動効果の最大化を図り、これからのに向けた多様な“今の企業メセナ”による社会への貢献(芸術・文化による社会創造)へのスタートの年とする。

■重点目標と施策

1. 事業活動の見直しを継続し、各事業との連携をさらに強化

コロナ禍の影響も踏まえながら、社会の動き、変化、潮流を見据え、短期的・長期的視点から各事業を見直し、内容の充実を図る。同時に活動内容、情報を共有し、活動成果の最大化を図り企業メセナの価値を伝える。

① 調査・研究

調査報告の分析・活用の強化

- ・ 昨年度導入したアンケート調査システムの課題を反映したバージョンアップを図り、回答者、管理者双方にとって使いやすいものにする。調査システムを活用し、過去のアンケートで蓄積されたデータを整理し、基礎データとして使いやすいかたちに整える。
- ・ 日本の企業のメセナ活動をグローバルな視点からの比較も含め、より深く分析し、企業メセナの変化や価値を発信し、周知を図る。メセナ活動への理解を促進し、会員企業などへの情報提供や要望に応えられる体制を整える。
- ・ ライブラリーのあり方を再度検討し、活用できる体制をつくる。

② 認定・顕彰

TIM では認定活動の増加を図るとともに、今後に向けて TIM とアワードの改善を行う

- ・ TIM では、できるだけ多くの企業メセナ活動を掘り起こし、全国で文化の継承、次世代育成など様々な形で社会に貢献している姿を示しさらなる活動の発展につなげる。
- ・ アワードでは、優れた活動を顕彰することにより、今の企業メセナの姿を社会に発信していく。
- ・ 部会メンバーや会員の意見も参考にしながら、現在の制度についてさらに検討を加え、引き続き改善を行う。

③ 助成事業

利用者、管理者にとって利用しやすいシステムへの改善を継続して行い、協議会ならではの助成制度をよりわかりやすく周知し、今まで以上に幅広く活用され全国の芸術文化の振興に寄与する

- ・ 協議会の助成制度の特徴についての理解を促進し、全国で行われているさまざまなメセナ活動の活性化に貢献する。
- ・ GBFund については、対象災害について寄付者の要望にそった支援を継続していく。

④ 広報

企業メセナ、協議会の発信力強化

- ・ 常に広報活動の効果を分析するように努め、協議会全体として最大の効果が発揮できるよう戦略的な広報活動を行う。
- ・ HP については、効果的発信のためのノウハウを蓄積する。
- ・ HP 改訂前と後の変化なども含めた分析を適宜行い、改善を行う。

- ・ 各事業の連携をさらに進め、多様なメセナ活動のタイムリーで効果的な発信を行う。

⑤ コーディネート、コンサルティング

- ・ メセナの専門機関として、集積している情報とネットワークを活用し、企業をはじめ芸術文化振興にかかわる内外機関などのさまざまな相談、協力の要望に応え、それぞれの活動のサポート、促進を図る。
- ・ 外部との連携体制を強化する。
- ・ 多様な交流を積極的に進め、必要に応じて外部専門家を活用する。

⑥ 30周年記念事業

- ・ 「メセナを知る本 1990-2010」(2010年12月3日発行)の改訂版を上期中に発行する。
- ・ コロナにより延期した、30周年記念交流会、特別講演会などについて、安全性を見極めながら、可能であれば実施する。

2. オンラインツールも活用しながらタイムリーで有効な「場」、「情報」の提供を行い、プラットフォーム機能を充実させる

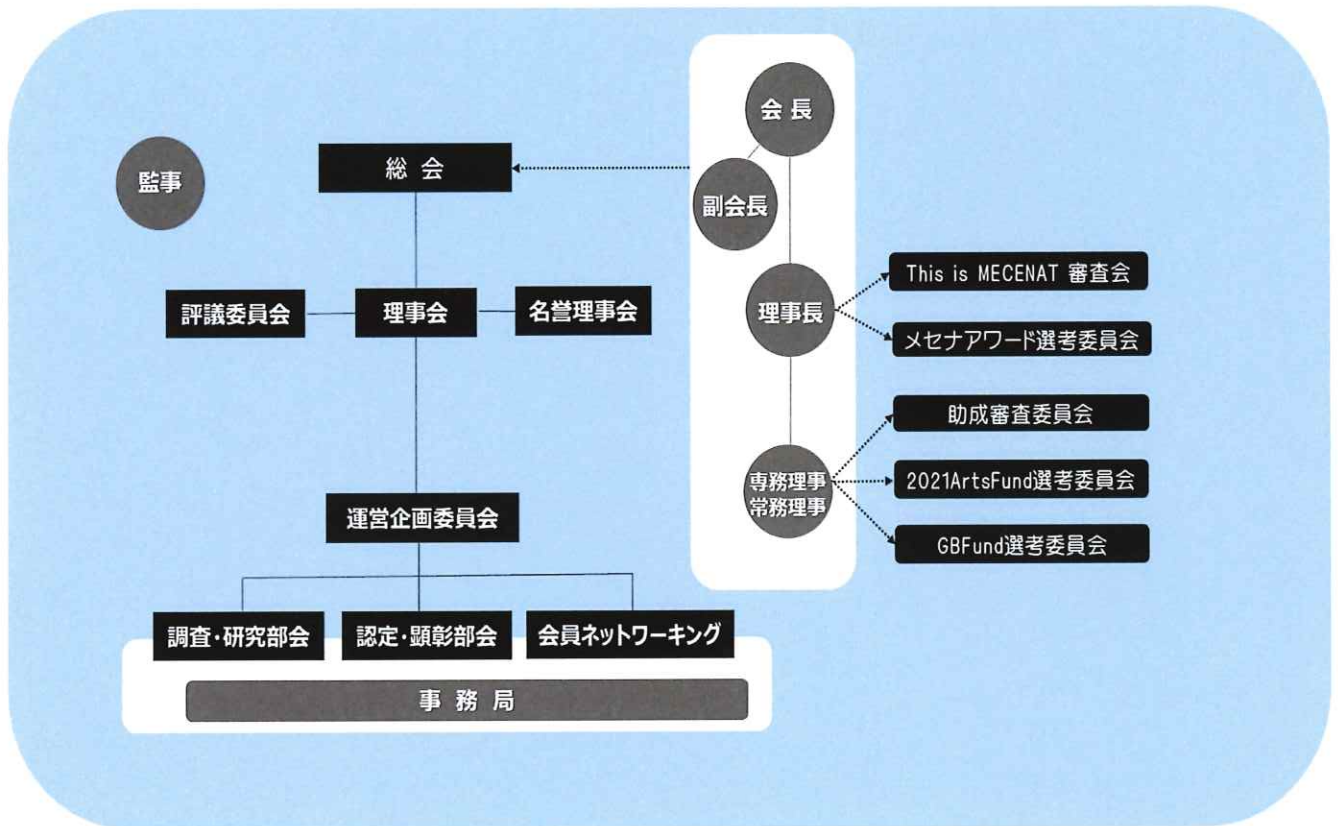
会員企業・団体をはじめ芸術文化振興にかかわる内外機関など、さまざまなステークホルダーとのコミュニケーションを通じて、タイムリーで有効なセミナー、コーディネート、コンサルティングなどを行い、国内外の芸術文化振興を促進させるプラットフォームとしての役割を果たす。

- ・ 会員とのコミュニケーションを強化し、適宜柔軟に必要とされる場、情報の提供を行う。
- ・ 部会、ワーキンググループの活性化を図る。
- ・ 芸術文化関連団体などとの連携も深め、セミナー、視察などを通じて芸術文化振興の促進に寄与するよう努める。
- ・ 全国メセナネットワーク(13団体)の事務局担当として、原点に戻り各団体と今後のあり方を議論し、活性化を図る。

3. 事務局の専門性の向上を図り、協議会としての価値を高め発信力を強化する

- ・ 協議会に蓄積された情報や知見を活かすだけでなく、メセナを通じてSDGsなど幅広く社会の動向や企業のニーズを見定め、企業メセナおよび協議会の社会的なプレゼンスの向上を図り、発信力をさらに高めていく。
- ・ 事務局内管理システムの現在の運用ルール、活用方法を再点検し、各事業の活動支援、会員などへのサービスの向上を図る。

I. 組織運営



1. 総会

会員が一堂に会し協議会の事業・運営について合意形成をはかるとともに、会員相互に交流する機会と捉えて、芸術文化振興に関する情報提供と、メセナ推進についての意見交換ができる場となるよう努める。[毎年3月開催]

2. 理事会

協議会の事業推進と組織拡大に努める。[通常理事会:2月、12月/ほか臨時理事会]

3. 役員会

理事を中心に、名誉理事・評議員・顧問を含めた役員合同会議を行うなど、協議会運営について幅広く指導を仰ぎ、あわせて情報の共有をはかる機会とする。[年1回程度開催]

4. 運営企画委員会

各部会・ワーキンググループ・プロジェクトチームの事業展開について共有・協議し、事務局とともに理事会への提案を行うなど、芸術・文化振興に関する諸課題について実質的な議論を行う。[年4回程度開催]

5. 部会・ワーキンググループ、プロジェクトチーム

部会・ワーキンググループは各事業の方向性や制度設計等について議論し、事務局の実務の遂行に対してアドバイスをを行う。

- ▶ 調査研究部会:メセナ活動実態調査および事例研究等の推進
- ▶ 認定顕彰部会:認定制度「This is MECENAT」顕彰事業「メセナアワード」の推進
- ▶ 会員ネットワーキンググループ:会員相互のネットワーク形成に資する活動を展開

II. 事業計画

【調査・研究】

■目的

日本の企業メセナの現状と可能性について調査・分析。日本のメセナ活動の状況・トレンドを理解し、またメセナ活動それぞれの固有の価値を抽出する。企業メセナの多様な価値を顕在化するとともに、今後の企業メセナ推進の一助となるよう、情報の整備を行う。

■事業内容

1. メセナ活動実態調査

- 令和3年度文化庁委託事業／委託期間:2021年4月～2022年3月

全国のメセナに取り組む企業・企業財団を対象とする定期調査。前年度の各社・団体の取り組み実態について、例年6月、企業約2,000社・企業財団約300団体へアンケート票を配布。夏から秋ごろに事務局での集計を経て、調査研究部会で議論を行い、翌春頃に集計データから見える最新トレンドを発表する(報告書『Mecenat Report』発行、報告会の実施)。

調査結果は国内におけるメセナに関する唯一の統計調査として、企業・企業財団、国、自治体、文化機関等で活用されている。

2. メセナに関する事例研究(メセナアソシエイト・協議会アソシエイト)

- 令和3年度文化庁委託事業／委託期間:2021年4月～2022年3月

2014年度より開始したメセナアソシエイトは、メセナ研究者育成を目的に毎年公募で募った若手外部研究員と協働し、「メセナ活動実態調査」や協議会把握データの活用、メセナ企業等へのヒアリング調査により、専門性を活かしたメセナの価値を掘り下げる事例研究を行い、結果を協議会HP上で公開する。

2020年度より開始した協議会アソシエイトは、芸術文化分野の若手研究者育成や最新情報の入手を目的に、協議会が設定するテーマに合わせて調査レポートを作成し、HP上で公開する。

3. メセナに関する国際調査

- 令和3年度文化庁委託事業／委託期間:2021年4月～2022年3月

国外における企業メセナや中間支援組織の活動について、基礎データを収集し、日本との比較を行い、日本の企業メセナの位置づけ、国際的なトレンド・兆候について情報収集を行う(対象国:アメリカ・イギリス・フランス・オーストラリア等)。

4. 情報ライブラリーの運営

協議会発行物やメセナ・文化政策・アートマネージメント等に関する書籍、企業・企業財団のメセナ資料の管理、利用者対応を行う。

■課題

1. 「メセナ活動実態調査」について、新規にメセナを行い始めた企業や近年活動を行っているが回答のない企業等の掘り起こし。集計データの十分な分析と近年の兆候をとらえるための考察時間の確保。2020年度に導入したシステムで、回答不備の多かった回答者画面のフォーム改善、回答者および管理者画面機能の追加検討。
2. 会員企業に対する調査結果の十分なフィードバック、および協議会各事業での活用機会の拡大。
3. 情報ライブラリーの蔵書や資料の整理および活用方法の改善。

■重点施策

1. 「メセナ活動実態調査」システムの機能向上を行い、実態調査全体の効率化を図る。
昨年度は回答者側の調査票基本部分の作成を中心にシステム化を行ったが、回答者および管理者側の機能追加を行い、より使い勝手のよいものにする。また、過去データを取り込み、管理者側のシステム上で年度別／ID別に回答状況を管理できるようにする。
2. 「メセナ活動実態調査」の回答率向上と分析強化
 - ① 未回答企業および財団の掘り起こしを行い、昨年度に引き続きシステム化による回答負担軽減化を周知するなど、回答率増加を目指した実施方法の改善を行う。
 - ② システム化による業務の効率化をさらに進め、調査結果についての議論、追加調査を行うなど、より深い分析を行うように努める。
 - ③ 調査部会のメンバー拡充を図るとともに、適宜外部の専門家を交えた議論の機会を設けるなど、調査の質の向上を図る。
3. 調査結果の活用機会の拡大、調査報告書の充実

- ① 年 1 回程度、調査研究部会と連動した報告会を実施。前年度「メセナ活動実態調査」の回答傾向や具体的事例を取り上げ、ゲスト講師を招くなど実態調査を深掘りする。また、WEB 配信も行い出来るだけ多くの人たちに発信し、理解を深める機会を提供する。
- ② 調査報告書の送付先を昨年度に続き公益財団、芸術団体、大学、経済団体を含む研究機関などへも広げ、メセナ活動の意義や実施団体の実態などについてより広く周知する。
- ③ 調査報告書送付時のアンケートを継続して実施し、活用状況や要望を把握するように努める。これまでは報告書にアンケート用紙を同封する形で対応していたが、メールでのアンケート送付も行う。また、調査結果に基づき、必要に応じて回答企業へヒアリングを行う。
- ④ 調査報告書の内容については、アンケート結果や他のレポートなどを参考にしながら、調査項目や報告書の内容の充実に努める。

4. メセナアソシエイト制度の充実を図り、成果も含め外部への広報を強化

- ① 本年度も様々な立場から、メセナ活動の今日的課題をテーマに事例研究を行い、少人数での密度の高い共同研究を目指す。
- ② 2021 年度で開始から 8 期目になる。昨年度加えた協議会アソシエイトとともに研究発表の場(セミナー等)を設け、外部からの参加者だけでなく歴代アソシエイトへも参加の声掛けを行い、協議会とメセナアソシエイトの連携を強化する。また、引き続き、レポートの Web 公開を行い、若手研究者育成や情報提供によりメセナ活動活性化に貢献する。
- ③ 必要に応じて外部 Web サイトとの連動やリンクを検討するなど、成果をできるだけ活用してもらえようとする。

5. 国外における企業メセナや中間支援組織の基礎データの収集と Web での公開

諸外国の企業メセナや中間支援組織の活動について、基礎データを Web 調査によって収集し、最新情報や日本との比較情報を日本語版および英語版 Web サイトで公開する。

6. 情報ライブラリー蔵書整理、Web ライブラリーと連動した活用への改善

- ① 上期は、ライブラリー整理ルールに基づく国内発行の蔵書整理と蔵書リスト作成を進めながら、蔵書カテゴリーやラベル表記の見直しを行う。
- ② 下期は、Web ライブラリーと連動させた利用しやすい環境を整え、必要に応じて運用ルールの見直しを行う。

【認定・顕彰】

■目的

メセナの姿およびメセナが社会創造に果たしている役割を、活動事例から明らかにする。認定制度で多様なメセナ活動を幅広く顕在化させると共に、顕彰によりメセナの意義と重要性を広く社会に周知する。これらの制度により、メセナに取り組む企業・団体を奨励し、一層の活動の充実に寄与する。

■事業内容

1. 認定事業「This is MECENAT」

多様な企業のメセナ活動を可視化し、裾野を拓げることを目的に 2014 年に設立した認定制度。「これぞメセナ」と認定された活動には、シンボルである「メセナマーク」を年度毎に発行し、専用サイト「メセナアーカイブ」に蓄積するほか、顕彰事業「メセナアワード」と連動して運営。

2. 顕彰事業「メセナアワード」

1991 年に創設した、優れたメセナ活動を顕彰する事業。「メセナアワード 2015」より、「This is MECENAT」と連動して運営。認定年度の翌年に、特に優れた活動 7 件(メセナ大賞 1 件、優秀賞 5 件、特別賞:文化庁長官賞 1 件)を選考し、受賞活動に対して、表彰状とトロフィーを贈呈する。[文化庁後援]

※This is MECENAT およびメセナアワードの審査・選考は、協議会が委嘱した外部の有識者によって行われる。

■課題

「This is MECENAT」「メセナアワード」を通して、より多様な活動を発掘し、メセナの裾野を広げる。

■重点施策

1. 「This is MECENAT 2021」

① 事業間連携によるメセナ活動の掘り起こしと情報共有の強化

制度開始から 7 年目を迎え、「This is MECENAT」の認定がメセナ活動の第三者評価として定着しつつある。会員の半数近くに登録いただいているが、引き続き会員の登録促進を図りながら、調査研究事業と連携し、新たな調査回答企業・財団にも呼びかけを行う。呼びかけにあたっては、コロナ禍による活動の影響や新たな取り組みなどもヒアリングし、他事業でも活用できるように基礎データとして整理・共有する。

② 多様な発信による認定メリットの強化

会員の認定活動については、継続してアート&カルチャーへの掲載をはじめ、メールマガジンや SNS の配信、メセナライターのトピックス記事としても取り上げるなど多様な情報発信を行う。また、外部の配信サービスの利用や地方紙への個別リリースを引き続き行うとともに、業界紙・過去関係したメディアへの個別リリース、NPO や関連団体への広報協力依頼など、より多様な媒体に働きかけ活動の認知度向上・価値の発信に努め、認定メリットの強化を目指す。

③ 地域における TIM への理解促進、応募数向上にむけた働きかけ

首都圏の TIM 認定企業が多い中、近年、徐々に首都圏以外でも認定企業が増えてきている。認定を受けた企業の活動をもとに、その地域の地方自治体、経済団体、NPO などに対して TIM について理解を深めてもらい、TIM の認知度向上と応募増加に向けた働きかけを行う。各地で様々な形で行われている企業メセナが地域文化の継承、次世代への芸術文化体験の提供を行うなど芸術文化の基盤を支えている姿を顕在化させ、さらなる活動の充実につなげる。

④ TIM 認定企業のフォローアップ

認定後も引き続き活動担当者とコミュニケーションをとり、活動情報を収集するとともに、必要に応じて好事例を紹介するなどの情報提供を行う。オンラインツールも活用しながら、認定企業の活動がより充実するよう認定企業同士の情報交換の場を設けるなど、認定企業が TIM 認定のメリットを享受できるように努める。

2. 「メセナアワード 2021」

① より多様なメセナ活動の発掘・顕彰

2020 年度はコロナ禍の影響により中止・延期になっている認定活動が多いため、申請については過去の実績もふまえながら現在の対応や今後の展望、活動のあり方に関する担当者の考えを含めて記載してもらうようにするなど、工夫を加える。より多様なメセナ活動の発掘・顕彰を目指し、認定・顕彰部会による推薦制度を継続していくほか、「メセナアワード」の選考会では、様々な特徴を持つ活動を選考委員が理解しやすいようにさらに情報収集に努め、より充実した選考情報を提供する。

② 受賞活動の発信を促進

受賞活動について、10 月を目途に広報と連携してプレスリリースを配信、11 月下旬に贈呈式を行う。式典では受賞各社・団体の経営層に登壇していただけるよう働きかけ、協議会ウェブや TIM 専用サイト、SNS で効果的に発信するほか、オンライン配信も実施し、遠方の企業やプレスなどに向けて広く「メセナアワード」の周知につとめる。受賞後は、スピーチのウェブ掲載や取材

等につなげるほか、セミナー・ネットワーキング事業と連携し、好事例として講演会や視察なども行いできるだけ多くの人たちとの共有を図る。

3. This is MECENAT／メセナアワードの今後について

事業運営については、認定・顕彰部会や審査会でのご意見を受けて、申請書類の内容やメセナマークなど、少しずつ改善を試みている。今後も新たな審査委員をお迎えすることを検討し、部会メンバーを増やすなどしながら、制度の充実・改善に努めていく。また、選考委員にはセミナーなどにご登壇いただき、企業メセナの社会的意義を含め知見を深める機会の提供にご協力いただくなど充実を図りながら、できることから改善しながら制度のあり方についてさらに継続して検討していく。



This is MECENAT 2021／メセナアワード 2021 ロゴ

メセナアワード 2019 贈呈式

[This is MECENAT／メセナアワード実施要領]

- ・ This is MECENAT 2021 募集時期： 2021年3月～5月
- ・ メセナアワード 2021 エントリー〆切： 2021年5月末

審査委員長： 萩原なつ子（立教大学大学院 21世紀社会デザイン研究科・教授）
審査委員： 佐倉 統（東京大学大学院情報学環 教授、理化学研究所革新知能統合研究センターチームリーダー）
中島信也（東北新社取締役副社長／CM ディレクター）
仲町啓子（実践女子大学教授／秋田県立近代美術館長）
山口 周（独立研究者、作家、パブリックスピーカー）
尾崎元規（企業メセナ協議会理事長）
* 新任の審査委員を1名補充予定

- ・ メセナアワード 2021 贈呈式： 11月下旬予定

【会員ネットワーク | セミナー】

■ 目的

会員相互の情報交換と交流の促進、研鑽の場を提供し、企業とアート NPO・市民団体・文化政策に携わる国や自治体・教育機関等組織をつなぐ活動を行う。「メセナ」に関する中間支援団体として、プラットフォームづくりを通じ、相互交流の促進を目指す。

■ 事業内容

1. 会員ネットワーキング活動の実施

新入会員の顔合わせの機会として「新入会員ファーストミーティング」を実施するほか、会員の関心が高いメセナの現場を視察し研鑽を深める「会員ネットワーク勉強会」「メセナ美術部・メセナ音楽部」「会員交流会」により、会員各社・文化関係者の交流・ネットワークづくりを促進する。

2. セミナー、講演会等の企画・実施

調査・研究、認定・顕彰、助成など基幹事業と連携した各種セミナーのほか、メセナ・文化政策等に関するセミナー、講演会を企画・実施する。

3. 全国メセナネットワークへの参画

全国メセナネットワークは、1998年に国内各地のメセナ関連団体の相互交流、情報交換、協力などを図り、各団体それぞれのメセナ活動を促進し、地域の文化振興に寄与することを目的につくられた会で発足時より参加。現在会員数、13団体。

■ 課題

1. 会員各社団体・文化関係者に向けてタイムリーで多様な交流機会の設定、ネットワーキング活動の活性化
2. ”今”の企業メセナを捉えたセミナーテーマの設定、国内外における先進的事例の紹介
3. オンラインツールを活用した効果的な発信の強化

■ 重点施策

1. よりタイムリーで多様な会員ネットワーク活動の企画・交流機会の設定

会員ネットワークの各活動について、よりタイムリーで多様なテーマに即した企画を設定し、適宜オンラインツールも活用しながら、できるだけ多くの会員への情報提供や意見交換を深められる場づくりを目指す。また、首都圏のみならず地方会員との交流機会も設け、会員間の連携を図る。引き続き、会員ネットワーキンググループの意見をふまえ、様々な会員ニーズを反映した内容を検討する。

2. 今の社会動向に即したセミナーの開催、国内外における先進事例の紹介

- ① 調査研究事業との連携セミナー・報告会
- ② 文化政策系セミナー(国内外および地方自治体における文化政策の動き)
- ③ 助成事業との連携セミナー(寄付、税制、法律、ファンドレイジング、フィランソロピー全般等)
- ④ 文化と経営等をテーマとする講演会(企業トップ、メセナアワード受賞企業、文化人等)

上述の①～④を柱に、各事業の知見を活かしたセミナーを引き続き開催するとともに、昨年延期した30周年記念講演会・交流会の実施も検討し、新しい企業メセナを発信していくことに努める。また、コロナ禍における国内外の文化支援の動きや、企業メセナの新たな取り組みについて紹介する企画なども検討する。時代のニーズを捉えながら、テーマ・ゲスト選定を行い、会員各社・団体をはじめ芸術文化振興にかかわる内外機関と連携して、芸術振興のさらなる発展や人材育成にも資する質の高いセミナーを行う。

3. ウェブサイトをはじめオンラインでの効果的な発信・会員サービスの充実

セミナーやイベントはオンラインと同時開催にし、広く企業メセナの周知に努めるとともに、アーカイブ動画としても蓄積する。あわせて、オンラインを活用して会員限定のコンテンツを設けるなど、会員のメセナ活動の充実に寄与する内容も検討する。開催報告のレポートについても、引き続きウェブサイトでタイムリーに発信し、得られた知見・実例等を積極的に紹介していく。

4. 「全国メセナネットワーク」への協力 (2019年4月～2022年3月)

2019年から協議会が幹事(1期:2年間)として事務局を担当。年1回行われる総会、会員交流会の企画運営、会計処理などを行う役割を担う。(2020年のコロナ禍で2021年まで延長)

2020年3月開催予定の総会はコロナ禍のため延期した。コロナの状況をみながら安全性を確保したかたちで2021年度中に開催する予定。幹事として各団体の要望をヒアリングしており、総会では会の今後のあり方を議論し、活性化を図る。

【相談・協力 | コンサルティング】

■ 目的

コーディネート、コンサルティング機能を強化し、企業や文化芸術に関わる諸団体の活動に寄与し、活発化させる。アート NPO や市民団体、文化政策に携わる国や自治体、教育機関等からの相談・協力依頼に積極的に対応し、セクターを越えた文化振興プラットフォームとしての役割を果たす。

■事業内容

1. 企業、文化団体やアートNPOからの相談対応、コンサルティング業務
「メセナよろず相談日」等の実施により、会員をはじめ企業・企業財団、民間の文化団体、自治体等からの相談に対応する。
2. 企業・自治体等からの文化事業の受託・実施
3. 諸団体からの講演依頼、評価委員等の受託
自治体、大学、文化団体等からの講演、審議委員等依頼に対応する。

■課 題

コーディネート、コンサルティングにおける、事務局内リソースの活用と、提案力の向上

■重点施策

1. メセナの専門機関として、企業を中心に幅広く文化セクターなどの相談に応じる
四半世紀以上にわたり蓄積してきた協議会ノウハウ・ネットワークを活用し、メセナの専門機関として、企業を中心に幅広い相談に応じるとともに、文化団体やアートNPO、企業との連携を望む自治体等をつなぎ、パートナーシップによる芸術・文化振興を推進する。
2. 事務局内の柔軟な体制による、提案型のコンサルティング実施
各相談案件のテーマに最適なチームづくりをおこない各事業のノウハウ・知見を活かした提案を行う。
3. 2020 東京オリンピック・パラリンピックに向けた文化の祭典への取組み
2020 年から本年に延期されたが、協議会ならではの機会をとらえて、会員企業・団体の活動に光をあてる取組みを推進する。

【助 成】

■目 的

芸術・文化活動に対する企業・個人からの寄付を促し、特定公益増進法人の特性（寄付金の税制優遇の適用）を活かした制度運用を行い、寄付者と活動者との間をつなぎ芸術文化活動の相互理解を促進し、芸術文化の土壌形成と振興を図る。

■事業内容

1. 助成認定制度

特定公益増進法人の特性を活かした制度運用により、支援者は寄付をしやすい、活動者は寄付を集めやすくすることで、芸術文化活動への民間寄付を税制面から促進する。芸術文化団体（活動者）の申請を受けて、審査および活動の認定を行う。

2. 2021 芸術・文化による社会創造ファンド[2021 Arts Fund]

これからの見据え、社会創造につながる創造性あふれる芸術文化活動への寄付を促進し、寄付者の意向に沿った支援プログラムのコーディネートおよびファンドの運営を行う。

なお、活動者が寄付を集めるために利用する場合も、助成認定制度と同様に、活動の申請を受け付け、選考および活動の採択を行う。

※1、2 ともに同スケジュールにて申請と審査・選考を年 4 回実施している。

3. 芸術・文化による災害復興支援ファンド[GBFund]

東日本大震災の発災をきっかけに、芸術・文化による復興ファンドを設立。2020 年度は新たに新型コロナウイルス感染症を対象災害として認定した。趣旨に賛同した寄付者の方とともに、被災者・被災地を応援する目的で行われる芸術・文化活動や、被災地の有形無形の文化資源を再生する活動、活動の継続・発展のための支援などを行う。

認定災害:東日本大震災／熊本・大分地震／平成 30 年 7 月豪雨／新型コロナウイルス感染症

■課 題

1. 芸術・文化団体にとって助成制度をよりわかりやすいものにする
2. 芸術・文化団体への助成制度利用の普及
3. 助成事業の WEB システム「かるふぁん！」の改良

■重点施策

1. 助成制度の利用促進

助成制度の更なる普及を目指し、利用促進計画案を作成し、実施していく。

「芸術文化活動者」、「寄付者」それぞれの利便性を高め、分かりやすい説明を行うことによって、利用促進を図る。

① ツールの充実

事業パンフレットの作成、説明資料や帳票等の全面見直しを実施する。

かるふぁん！サイト(制度説明)の全面見直しを実施する。

② かるふぁん！システムの利便性向上

かるふぁん！マイページの更なる改良により、利用者の利便性向上を図る。

③ 助成相談窓口の再構築検討

各都道府県に過去設置されていた助成相談窓口のあり方を再検討し、制度利用促進にむけた活動実施案を作成する。

④ 活動者向けセミナーの開催

制度の理解を促進するだけでなく、企業のメセナ活動などへの理解を深めてもらい全国各地のメセナを担う人材の育成に寄与し、さまざまな芸術文化活動の活性化に貢献するセミナーを企画、実施する。

2. 2021ArtsFund における「SOMPO アート・ファンド」の検証

2020年のオリンピック・パラリンピックに向けた芸術文化活動の支援として約5年間運営してきた「SOMPO アート・ファンド」が、2021年3月に終了を迎えるにあたり、5年間の活動について報告書を作成し、検証する。

2021ArtsFund において、寄付者が設立したファンドの最初の事例として、今後の運営に活かしていく。

3. GBFund の運用

対象災害について、寄付者の要望にそった支援を継続していく。

【広報】

■目的

協議会各事業の取り組み、および会員各社団体のメセナ情報等を広く発信し、「企業メセナ」の周知と多様な価値の見える化、協議会のプレゼンス向上に寄与する。

■事業内容

1. 国内外に向けた企業メセナ・協議会活動に関する情報発信

- ・ プレスリリース配信、メールニュース(月1回、不定期)
- ・ 協議会ウェブサイト(日英)の管理・運営、コンテンツ制作
 - 「アート&カルチャー」:協議会会員のメセナイベント情報を紹介
 - 「メセナライター制度」:外部ライターによる、メセナの現場・協議会行事の取材レポート
- ・ 公式 SNS(Facebook、Twitter、Instagram)の運用
- ・ 記者発表会等の実施

2. 協議会発行物の制作・管理

- ・ 『メセナアワード』冊子、セミナー報告書等印刷物の制作統括

■課 題

1. 戦略的広報計画および各事業との連携強化
2. 会員各社団体、とくに地方会員企業、および地域メセナに関する情報発信
3. メディア関係者名簿の機能性
4. 協議会に蓄積された資産の活用

■重点施策

1. 年間を通じた戦略的、横断的な情報発信

- ① 年間を通じ、協議会の各事業に対応した広報プランを策定し、横断的な視点のもと、タイムリーかつ効果的な発信を行う。
- ② クリップングやHPのアクセス解析など、事業の発信結果の記録を有効活用できるよう基盤整備を強化し、戦略的広報計画につなげる。
- ③ HPのアクセス解析を定期的を実施し、その都度検討・改善をしながら効果的な運用の最適化を図るとともに、ニーズに即したコンテンツ制作や情報発信を適宜行う。
- ④ 協議会各事業の成果のアウトプットを確実にを行い、アーカイブ化を強化する。
- ⑤ 各事業と連携を図り、常に情報共有をしながら最適な発信ができるようにする。

2. 会員各社団体のメセナ情報の効果的な発信

- ① 会員各社団体の「アート&カルチャー」(メセナ活動イベントカレンダー)利用について引き続き周知し、積極的な声かけを行い掲載数を増やす。
- ② SNS・メールマガジン等の他媒体と連動し、効果的な発信ができるよう努める。
- ③ 引き続き「メセナライター」制度では、メセナを発信する人材の育成につなげるとともに、「企業メセナ訪問記」を通して企業のメセナの事例を発信する。

3. プレスリリースの効果的な情報発信

- ① メディア関係者名簿の見直しと運用ルールの改善により、メディアリストの最適化を実施。
- ② プレスリリース配信の際に内容に応じたターゲットの絞り込みを行う。記者と積極的にコミュニケーションをとり、メディアリレーションを構築する。

4. 「メセナを知る本」改訂版の発行

30周年記念事業として「メセナを知る本」の改訂版を本年上期に発行する。

Ⅲ. 年間スケジュール

| 月 | 事業 | 組織運営 |
|-----|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------|
| 1月 | ■調査研究部会 | |
| 2月 | ◇会員企業の情報交換会(予) ◆助成:内閣府へ税額控除に関する申請 | ◎第1回運営企画委員会 2/4@ヒカリエカンファレンス ●第21回通常理事会&第2回運営企画委員会 2/16@東京ガーデンテラス紀尾井カンファレンス |
| 3月 | ◆助成認定制度&2021 アート・ファンド選考・審査委員会 ■Mecenat Report 2020 発行 ★TIM(This is MECENAT)2021 募集開始 ◇「SDGsとメセナ」vol.7 セミナー3/5@東京ミッドタウンカンファレンス | ●第10回社員総会 3/5 @東京ミッドタウンカンファレンス |
| 4月 | ■メセナアソシエイト第8期募集開始 ◆助成活動者向けセミナー(予) ◇フィールド視察(予) | |
| 5月 | ★TIM(This is MECENAT)/メセナアワード応募〆切 ■調査報告会/メセナアソシエイト第7期レポート公開 ■メセナライター募集開始 ◇会員企業の情報交換会(予) | |
| 6月 | ★TIM(This is MECENAT)審査会 ◆助成認定制度&2021ArtsFund選考・審査委員会 ■調査アンケート開始 ◇「メセナを知る本」出版記念セミナー(予) | ◇30周年記念本(メセナを知る本(仮))出版(予) |
| 7月 | ◇新入会員1stミーティング(予) ◆SOMPO アート・ファンド 活動報告書(5年分) | ◎第3回運営企画委員会 |
| 8月 | ◆助成活動者向けセミナー(予) | |
| 9月 | ◆助成認定制度&2021ArtsFund選考・審査委員会 ■調査アンケート〆切 ★メセナアワード選考会、受賞活動決定 | ◇30周年記念交流会(予) |
| 10月 | ★メセナアワード受賞活動発表 ■国際セミナー(予) ○記者発表会 | |
| 11月 | ★メセナアワード2021 贈呈式 | ◎第4回運営企画委員会 |
| 12月 | ■調査研究部会 ★TIM 情報交換会 ◇フィールド視察(予) ◆助成認定制度&2021ArtsFund選考・審査委員会 | ●第22回通常理事会&第5回運営企画委員会 |